

未来の技術者

岐阜大学・学生たちが提案する「明日の岐阜」 問屋町再生「まちの景観デザイン」公開 発表会を聴講してきました。



この発表会は、岐阜大学工学部社会基盤工学科の演習の一環として、学生が岐阜駅前問屋町の市街地再生をテーマに「まちの景観デザイン」の提案を披露したものです。

市川経営支援員

開催日時 平成27年12月17日(木)
10時~12時
会場 岐阜シティタワー43
1階 アトリウム



学生たちは日頃、大学での講義「景観デザイン」のなかで「景観とはなにか」「景観の構造」「人の集まる空間のデザイン」「水と緑のデザイン」「色彩計画」「都市の魅力と問題」などについて学んでいます。そのなかで今回、「問屋町再生」といった実際のまちを対象としたテーマでの演習を行うこととなり、11月初旬から約40名の学生が取り組みました。



これからの問屋町をどのようにすべきか、そのために必要な空間デザインのポイントを選定し、ポスターと模型表現によって提案しました。



問屋町での実見調査(実況把握やヒアリング調査)を重ねながら課題を発見・研究し、解決策をデザインで提案する力を、最終課題である公開発表会での実践によって身につけていきました。

この日は、学生のほかに問屋街関係者(商業者)、地域住民約80名が参加。「これからの問屋町」について真剣に考える時間となりました。



まとめ

学生たちの提案内容は、岐阜市の産業の礎を築いた繊維問屋産業を残し、新しく賑わいを創出するものが多く、憩いをつくるための空間(広場)創りや、集客のためのソフト事業が具体的に表現されていました。

例えば、夜に屋台を並べ昼と夜両方に賑わいをもたらす業や歩行者デッキを作り駅から動線をつないで2階部分に小売店をおき、卸売業から小売業にシフトできる環境を整えるといった新しい提案がありました。

今回の発表を聴いて、普段、問屋街に足を運ぶことがない若者が、岐阜市の繊維産業や駅前の問屋街の人たちのことを知り、自分たちが生活する街のことを真剣に考える良い機会になると感じました。また、問屋町の卸売業者さんや地域の方達も問屋町に対する客観的な若者の意見を聴く貴重な時間となったと思います。

今後も様々な人達に提案を求めながら「まちづくり」を考えていく必要があることを再認識しました。市